

令和 2 年度使用

小学校用教科用図書研究資料（総評）

【家 庭】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
2 東京書籍	(1) 家庭科の目標を達成するために、基礎的・基本的な内容の習得から応用・発展的な学習へと、児童の発達の段階に応じて、系統的に学ぶようになっている。また、基礎的な知識や技能は、5年生で多く学び、6年生でも再度学習することで、より確実な定着を図るようにしている。さらに、各学年末には「まとめ」を置き、学習を振り返るような構成・配列の工夫が見られる。	表紙裏～P2
	(2) 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるための工夫については、日常生活に必要な知識・技能を「いつも確かめよう」で示し、確認したり、振り返ったりしながら学べるような手立てがなされている。また、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養うために、実践の進め方や実践の例を示した「生活を変えるチャンス！」が設定され、学びを人生や社会に生かせるような工夫が見られる。	P10 P61
	(3) 「イエッティー」「トリー」や児童のキャラクターの吹き出しが学習のポイントを具体的に示しており、児童の学習意欲を高める工夫が見られる。また、巻末にまとめられた安全教育や防災教育の特設ページや、「安全」マークとチェック欄の設定により、児童が安全や環境、防災について意識して活動できるようになっている。手をのせてまねできる実寸大の写真の表示によって、効果的に学習を進めることができるように工夫されている。	P7 P143～144 P10 P131
	(4) 家庭や地域の人々との関わりを考え、学んだことを生活に生かせるようにするために、各題材の内容に関連した地域の人々やプロへのインタビューを掲載した「プロに聞く！」が設定されている。そこでは、専門家の知識や技能について情報を幅広く習得でき、学んだことを仕事や生活への興味として捉えることができるような工夫が見られる。	P48 P105
	(5) 消費者教育に関する内容として、買い物は売買契約であることやインターネットでの取引で注意すること、いろいろな支払方法があることなどを学び、消費者としての基本的な知識や態度が身に付くように工夫されている。	P34～35

9 開隆堂 出版	(1) 家庭科の目標を達成するために、5年生では「できることを増やす」、6年生では「工夫して生活に生かす」というテーマを設定している。また、基礎的・基本的な内容から応用・発展的な内容へと、系統的に展開されるようにしている。さらに、卒業前には、2年間の学習を振り返るとともに、中学校での学習に生かそうとする意識を高める構成・配列の工夫が見られる。	P1～2
	(2) 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるための工夫については、日常生活に必要な知識・技能を、簡単なものから細かなステップを踏んで、繰り返し積み重ねて学習できるような手立てがなされている。また、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養うために、課題解決のステップや取組の例を示した「レッツトライ 生活の課題と実践」が設定され、学びを人生や社会に生かせるような工夫が見られる。	P14～19 P77
	(3) キャラクターが、家庭科の見方・考え方を働かせる手助けや学習のヒントを具体的に示しており、児童の学習意欲を高める工夫が見られる。また、作業を安全に進めるための特設コーナーや、「安全」マークとチェック欄の設定により、児童が安全や環境、防災について意識して活動できるようになっている。調理や製作中に活用でき、折り込みページや裏表紙によって効果的に学習を進めることができるように工夫されている。	P9 P12 P13 巻末折込 裏表紙
	(4) 家庭や地域の人々との関わりを考え、学んだことを生活に生かせるようにするために、題材の内容に関連した職業に就いている人へのインタビューを掲載した「〇〇にかかわる人」が設定されている。そこでは、いろいろな職業があることや、学んだことを生かせる仕事があることを知ることで、職業観を養うような工夫が見られる。	P43 P123
	(5) 消費者教育に関する内容として、よりよい買い物ができるようにするための必要な情報や判断すべきことを考えさせ、買い物の仕方と買う際に工夫できることを学び、消費者としての実践的態度が身に付けられるように工夫されている。	P62～63